



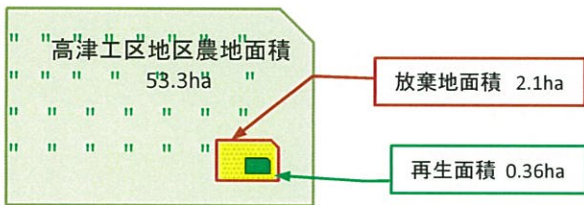
国営開発農地地区での再生利用 ～ 初年度は大豆栽培で生育度合いを確認。



島根県の最西端に位置し、島根県では比較的温暖とされている。県内に3ヶ所ある国営農地開発地の一つで昭和63年度に事業完了した。市内から西へ車で約15分の丘陵地に位置し、ぶどう、トマトなどの大規模施設農業も行われ、企業参入も見られる。

(参考気候)冬の気温は1、2月のデータ。日照は益田のデータ

【高津の気候 年平均値】	春/3～5月	夏/6～8月	秋/9～11月	冬/12～2月
気温 (°C)	12. ⁸	24. ³	17. ⁵	6. ⁶
降水 (mm/月)	122. ⁷	186. ⁶	105. ⁰	90. ⁸
日照 (時間/日)	5. ⁸	6. ⁰	5. ⁰	2. ⁸



再生前の状態・再生作業



きっかけ

20年程度の営農後、一時農業から離れていたが5年前から再開。露地やさいなどを栽培していたが、地区役員から隣地の耕作放棄地の紹介を受けた。再生地は後継者ないハウスぶどう畑で10年程度放棄。雑草繁茂、樹木侵入が見られ、雪害で倒壊したハウスの残骸も散逸していた。市の公報で耕作放棄地再生利用緊急対策の制度が利用できることも知り、再生利用することを決めた。

- ① 開発農地地区内であり、水利整備されている
- ② 進入路に隘路ない
- ③ 日当たり良好、などのことが決定要素ともなった。

栽培上の問題など

平成23年度に重機を使っての再生、土壌改良を実施。平成24年の春に大豆の栽培を始めた。再生地での初年度であり様子見的な面もあったが、生育度合いが確認できた。今後は大豆と麦の二毛作も考えていくが、採算とれるまでには数年は必要。長らく放置された農地、初年度の生育状況も見るなか継続的な土壌改良の必要性を強く感じている。初年度の生育状況も見る中、土壌改良の継続実施の必要性を大いに感じており、この面での支援を強く望んでいる。

再生作業について

草刈り、灌木除去、除礫などの作業を要したが、重機を使い比較的効率的にできた。



いのしし、雉などによる鳥獣被害も予想され、市の支援を受けて電気柵の設置も進めていくことにしている。